

伊勢原の民話紙芝居 ～大山寺縁起より～

『ワシの育て子』を語る

監修：伊勢原市教育部社会教育課



若林京子さん



酒井道子さん



1 この物語を紙芝居にしようと思ったのはなぜですか？

酒井「『ワシの育て子』は、民話のくくりではありませんが、大山寺に伝わる話で、赤子の良弁がワシにさらわれるダイナミックな展開が魅力です」

若林「ストーリーの壮大な展開と面白さに惹かれました。金色の鷲や猿、親子の出会いの場の金色の光などもユニークで、インパクトのある絵になると思いました」

1 この紙芝居は、伊勢原の民話紙芝居3部作の3作目ですね。

酒井「はい、そうです。はじめから3部作の予定でした。大山の話が一番むずかしくて、最後になりました」

若林「伊勢原3部作の真打ちだと思っています。それだけプレッシャーも大きく、調べることもいろいろあって、なかなか取り掛かれなかったのですが、2015年の絵本展でやっと形になりました。これは紙芝居とは異なり墨絵。彩色は一部金色のみの絵巻風ですが。その後、『ワシの育て子』の絵本を見た酒井さんから、紙芝居にしたいという話がありました」



酒井「2017年にはほとんど出来上がっていたんですが、8月に2人とも、別々に入院することになってしまい、完成しませんでした。2018年の手づくり紙芝居コンクールに応募し、県立図書館長賞をいただきました。2019年に印刷する前に大山寺のご住職に紙芝居を見てもらって、僧侶の衣装について教えていただき、何枚か絵を描き直すことになり、若林さんには個人的にお忙しい時に大変な思いをさせていただきました。そして、2020年1月に絵が完成し、3月に印刷が上がりました」

 なぜ伊勢原の民話や伝説を紙芝居という形で製作されたのですか？

酒井「紙芝居は、絵本と違って100人～200人の人と一緒に楽しめるんです。紙芝居は、日本で生まれた文化ですしね」

若林「紙芝居には、声で語られる話のおもしろさと、絵が伝えるその雰囲気や奥深さがあると思います。自分で文字を追うのとは違う、他者の話を聴くことで自分の中にイメージを広げて物語の世界にひたれる。その楽しさ・心地よさを感じてもらえたらいいですね」

 この紙芝居を製作する上で苦労したことはありますか？

若林「これは『日向薬師の大太鼓』でも『おとめ地蔵』の場合でも同じですが、絵を描く上での時代考証です。衣装や道具、風俗・生活習慣。『伴大納言絵巻』『信貴山縁起』（※）などの絵巻物の図鑑や美術全集などをいろいろ調べました。特に当時の市井の人々がいきいきと描かれた『北斎漫画』には助けられました。参考にした『大山寺縁起』によれば、良弁上人の時代背景は奈良時代なのに、提示された絵巻は十二単や衣冠束帯・水干の平安調だったので、迷った末に『大山寺縁起』に合わせました。他にも、帝や長者、僧侶の衣装など、ネット検索しても詳しくはわからないことがたくさんありました。あと、これは『おとめ地蔵』の時にも述べましたが、絵本から紙芝居へのサイズの変更も大変でした」





 絵を描く上でのこだわり等ありましたか？

若林「紙芝居の最初の原画は、和紙に青墨描きで訂正のきかない一気描きなので、とても神経を
使いました。最終的には別の方法での彩色になりましたが、和の雰囲気を感じていただけ
ればと思っています」

 最後に紙芝居『ワシの育て子』について一言お願いします。

酒井「まず、素晴らしい絵を味わってほしい。そして、赤子が鷲にさらわれて、偉い僧侶になっ
て大山寺を開くという、とてもダイナミックな大山寺の物語を楽しんでいただければと思
います」

若林「子どもをさらわれた長者の長く苦しい旅、良弁との出会いの場面などスリリングな展開
を、語りと絵で味わっていただければ嬉しいです。伊勢原にはこんなに面白い話があるの
だ！！と思っていただければなお嬉しいです」

 貴重なお話をありがとうございました。



※参考：『伴大納言絵巻』『信貴山縁起』いずれも平安時代末期作の絵巻

『大山寺縁起』編集・発行／雨降山大山寺山主 千葉興全 出版社／株式会社金羊社 発行／昭和59年
『北斎漫画』浮世絵師「葛飾北斎」作の絵手本 15 編。